6 年ぶりの香港

農林中央金庫　香港駐在員事務所長　田下　裕一

私は 2022 年 4 月に香港に着任、今回は私にとって 15～16 年に続き 2 度目の香港赴任となります。入国して生活してみると久しぶりの香港生活は引き続きコンパクトで、普通に暮らす分には何ら不自由なく安全な生活を送ることができています。以前と変わらない風景がある一方、ここ数年で香港の状況も大きく変わりました。今回は香港での生活や文化にフォーカスして私が感じた前回赴任時からの変化を 3 つ記載したいと思います。

〇静か・・・前回の赴任時にはコーズウェイベイ、尖沙咀といった繁華街では至る所で中国本土からとみられる観光客が宝石店やドラッグストアで買い物をする光景が見られ、休日にはあまりの人の多さのために歩くのもやっとという状況、それもそのはず、コロナ前には人口わずか 750 万人の香港に年間 6,000 万人の観光客が訪れていました。コロナ以降は中国本土・香港の厳しい水際措置のため、観光客の数がほぼゼロとなったことでかつての喧噪は失われてしまっていますが、タクシーが捕まえやすくなった、電車の混雑が緩和された、ゆっくりと街歩きやレストランでの食事を楽しむことができる等、むしろポジティブに考えている香港人も多いとのことです。

〇新しい観光スポット・・・香港には食事と買い物以外の観光資源が少ないと言われて久しかったのですが、西九龍地区に現代アート博物館「M+」、「香港故宮博物館」が昨年から相次いで開館しました。日本ではあまり話題になっていないように思いますが、M+では日本を含むアジア各国の美術作品、また香港故宮博物館では北京の故宮博物院所蔵のコレクションを楽しむことができ、いずれの施設の展示品の質・量とも申し分ありません。海沿いには香港島のビル群を眺めながらお茶を飲んだり、食事ができるカフェ等も併設されており一日ゆっくり楽しめる空間になっています。香港ディズニーランドやオーシャンパークに続く新たな観光スポットになることが期待されています。

〇日本大好き・・・香港人の日本好きは昔から有名ですが、コロナで海外に出られないストレスもあったからか、ここ数年でこの傾向に拍車がかかったように思います。街中に日本産の食品があふれ、1 食数千ドルもする和食レストランにも連日多くの人が訪れています。また和風居酒屋に行くと、香港人の若い女性が 1 人で冷酒を飲んでいる姿を見ることも多く、日本文化の浸透度合いの深さを感じます。日本人と分かると向こうから「日本のどこの出身？」と話かけられることも多く、日本人としてこの状況を非常に嬉しく思います。

足元の香港の水際対策は徐々に緩和されてきているものの、旅行者にとって負担の重い入国時・入国後の PCR テストが継続しており、これが香港行きを躊躇させる最大の原因となっています。香港の水際対策は本土のコロナ政策に左右されるため、撤廃の時期は不透明ではありますが、撤廃の際には上記のポイントも参考に、是非香港に足を運んでいただき、香港を楽しんでもらいたいと思います。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/